

## 同窓会の皆様へ



工学院大学専門学校同窓会

会長 山本 清

今、私の手元に一冊の学友会誌があります。昭和29年9月19日発行の「暁雲」創刊号です。私達の仲間が編集したもので、それ以前には、昭和26年に「夕暮」が発行されていたが第一号だけで中止になっています。

その後、幾多の変遷はありましたが、半世紀を超える長きに亘った「暁雲」も今回で中止やむなきにいたった事は真に残念な事であり、が、最初にこれを作り、最後に同窓会会長として寄稿できる事は真に

感無量の想いです。

50年前の日本は敗戦の混乱からようやく立ち直ろうとしている、まだまだ苦しく貧しい時代でした。創刊号の編輯後記の中で「苦しい日常生活の中にとすると暗黒の中の希望を失いがちな日々を続けているが何らかの形で光明を見出し、明日への明るい希望を持ちたいと念願するものである」と述べている通り「夕暮」ではなく「あけぼの」にしようという事で「暁雲」が出来たものと解釈しています。



「暁雲」創刊号に載っている当時の学校は昭和29年7月5日現在で、土木・機械・電気・建築・造船・化学・冶金の7学科と、1359名の学生総数を擁する規模でした。遅く登校すると教室に入りきらないで廊下から覗いて授業を受けている姿も見かけました。

私は七代の校長（野口 尚一、小浪 博、鈴木 敬治郎、北郷 薫、草野 邁、内山太、大勝 靖一）に仕えましたが、小浪校長の時、先生の努力により専修学校法が成立し専門学校となり、鈴木校長の時昼間部が設立され、専門学校の隆盛期に入りました。

今振り返って見ますと、さまざまな思いで蘇ってきますが、この伝統ある学校が何故消えていかなければならないのか未だに理解が出来かねています。従って、同窓会としては未だこの決定（募集停止）を容認していません……が現実には厳しく、廃校へと進んでいます。学校は消えても同窓会は変わらず活動を続けていきます、又同窓会は社団法人工学院大学校友会の終身会員でもありますから校友会主催の行事又は各支部活動には従来通り参加して下さい。

最後に皆様の末永い御健康と御繁栄を願っています。

2006年11月